

Economic Monitor

米国家計の過剰債務問題は進捗も、保有資産は伸びず

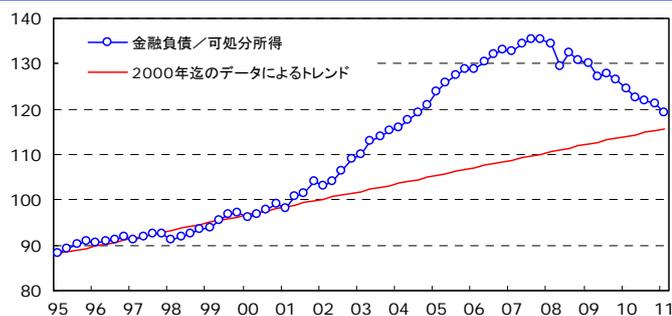
2011年1~3月期の資金循環統計によると、家計の金融負債は2010年末から737億ドル、前期比年率では▲2.1%と大幅に減少した。負債圧縮を受けて、可処分所得に対する金融負債の比率（金融負債/可処分所得）も2010年末の121.3%が2011年1~3月期には119.3%と2%Ptも低下している。

同比率の低下には、給与税減税などによって、分母である可処分所得が1~3月期に大きく押し上げられた影響も含まれる（給与税減税による所得押し上げは2011年を通じて続くが、4~6月期以降の追加寄与はない）。そのため、4~6月期以降に同様の速いペースでの低下が続くわけではない。とは言え、可処分所得に対する金融負債の比率は、2000年までのトレンドから計算した持続可能と考えられる水準（1~3月期段階で115.7%）に接近してきた。当社の従来からの想定通り、2011年末には可処分所得対比での債務の過剰感は概ね払拭される見込みである。

一方、家計のバランスシートの資産側を見ると、総資産の増加は限定的である。可処分所得に対する総資産の比率は10~12月期の618.1%が1~3月期は618.6%へ小幅上昇、ボトムである2009年1~3月期からの上昇も34.5%Ptに達した。しかし、2010年以降は一進一退の域を脱していない。これは株高などを受けて金融資産の価値は増加しているものの、住宅価格下落を受けて保有する有形固定資産の価値が減少を続けているためである。住宅価格の下落が家計のバランスシートを圧迫していると言える。

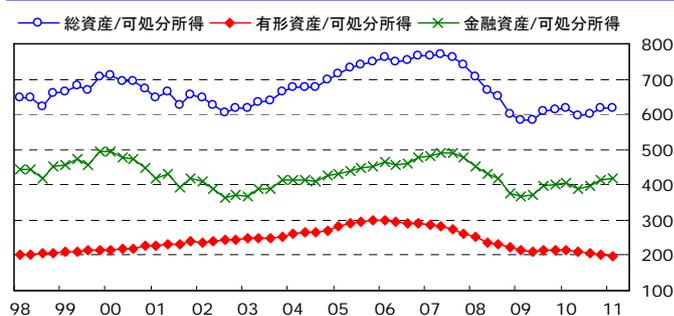
過剰債務問題に目処があっても、すぐに家計のバランスシート問題が収束するわけではない。住宅市場に溢れている（今後溢れる）デフォルト物件の処理が進み、住宅価格が下げ止まるまでは、住宅バブル崩壊の悪影響が家計を蝕み続ける。

金融負債／可処分所得 (%)



(出所)CEIC Database

家計の資産状況 (%)



(出所)CEIC Database